



Governor's

ガバナー月信 No.11

MONTHLY LETTER

5

ガバナーメッセージ

職業奉仕・雑想

国際ロータリー第2750地区 2009-10年度 ガバナー 久邇 邦昭



職業奉仕については先月の月信で打ち止めにしてもよかったのですが、考えていると色々思い当る事も出てくるので、もう少し模索してみようと思います。

欧州で宗教改革の時に、勤労は神の御心に叶うのだという事が唱えられ、産業革命の原動力になったとされていますが、ではそれ以前は労働に対する考え方はどうだったのでしょうか。

旧約聖書の「創世記」でアダムとイヴが蛇の誘惑で木の実を食べ、永遠の楽園を追放されると共に生きる為の労働を強いられる事となった、とあります。マルクスも労働を苦として立論しているのは明らかですね。一理はあるかも知れませんが資本家によって搾取される労働者という図ですね。

欧州で働いていた時、定年等でやめる現地の人、さよならと云うのでまあ一杯やるかとパブに誘って、さてこれからどうするんだときくと、田舎に家を買った、ガーデニングをやるんだと云って喜々として去って行く。又、私が伊勢の神宮をやめる直前、アメリカに永住している日本人の知人がアメリカ人の友人をつれて参拝に来ました。そしてそのアメリカ人を私に紹介する時、私がもうやめるのだと云った所、満面に笑みを浮かべて大きな手でぎゅっと握って「コングラチュレーション」と云ったのです。私は11年間奉仕した神宮を去るという一抹の感傷に浸っていた頃でしたから一瞬唖然としました。勤労の価値は認めても、やはり労働は苦という考えがベースにあるという事ですか。

それから、自分が働いている会社に対する考え方が我々と違うなと感じたのは、今回の金融恐慌に際して倒産に瀕した会社の幹部が巨額のボーナスをとっているというニュースでした。アメリカ最大の保険会社AIGが2008年に出した損失は約993億ドルにもなり、FRBは850億ドルの融資を行いました。2009年になると従業員に対して多額のボーナス、総額で1億6500万ドルものお金が支払われました。100万ドル以上受け取った幹部

が73名、640万ドル（6億円超）受け取った者も居たそうです。流石に議会でも問題になったが誰も返さなかったという。AIGのみならず窮地にある大会社もおしなべて同様であったそうです。

ここで又、「創世記」にあるノアの箱船の話が思い出されます。「神が腐敗堕落した人間に失望し、大洪水を起して彼等を一掃しようとする。ただすべての生命をなくすことは躊躇し、信仰の厚いノアとその家族、それにすべての動物の番いだけを箱船にのせて助ける。」というものです。こうした所から選民の意識が出てくるのでしょうか。会社は海に沈む悪者で、自分達は選民、多額のボーナスは当然という事ですか。日本ではこうした場合、社会の大反対でとても多額のボーナスはもらえないでしょう。何割か辞退するとか、給料カットとかになるでしょう。大体元々、社長の給料やボーナスはアメリカに比べれば遥かに少ない。日本では会社の活動は総力で行っているという意識で、役員の権力はアメリカより遥かに小さいと云えるでしょう。

日本人は農耕民族として農事作業は協同作業として行われ、家族主義、集団主義が基本、「お陰様で」と云い合って村を中心に暮らして来ました。誰かが突出して多額の給与をもらおうというのには馴染まないという事でしょう。

アメリカでは成功すると大きな社会奉仕をしますね。前出のアメリカ永住の日本人も通信制デパートをやって成功し、バン・クライバーンという著名ピアニストがバン・クライバーン・ピアノコンクールをやっていますが、日本の若手ピアニストをこのコンクールに出す試みを一所懸命にやられました。巨額の収入があり、一方子孫に美田を残すという考えが一般的でないアメリカでは大きな事業をしますね。これは勿論称えられるべきことですが、我々としても「お陰様で」の気持ちを大切に出来る限り社会の為に盡くすることが大事なのでしょう。

これは文化の違い、どちらがよいとは云えないかも知れないが、世界の中で生きて行かざるを得ない日本としてはどこかに接点をみつけねばならないという事でしょう。

INDEX

<http://www.ri2750.org/>

▶ ガバナーメッセージ

▶ 今年度を振り返って

地区幹事 星野 欣也（東京南RC）

▶ 「東京米山友愛ロータリー・クラブ」
国際ロータリー加盟認証状伝達式開催のご案内

▶ 寄付報告／文庫通信／物故

▶ 出席報告／編集後記

Rotary International

Vocational Service & its miscellaneous thoughts

Rotary International District 2750

2009-10 District Governor Kuniaki KUNI

I think that I would stop writing the Vocational Service at the last Governor's Monthly letter, but I am going to seek it more so that I can remind a various thoughts.

At the Reformation in Europe, a work was said that it obtained the divine's mind and it was a moving force of the Industrial Revolution. But before that, how was a thought of the labor?

The Genesis of the Old Testament says that Adam and Eve ate a nut by snake's temptation, was banished out from an eternal paradise and was forced to work to live together. It is clear that Marx argued the work as pain. There is some truth in what it is, but it is a view of the worker squeezed by the capitalist.

When I worked in Europe, I invited local person who retired at the company to have a farewell drink at the pub. When I asked him how he would do from now, he mentioned he would purchase a house at the countryside and do the gardening and he willingly left there. And just before I left the Ise Shrine, some Japanese who was a permanent resident in the States paid homage with his American friend together. And when he introduced his American friend to me, I told him about my retirement and he said to me with a broad smile and strongly grabbed hold of my hand "Congratulation". As I had had sentiment of my retirement in the Shrine during 11 years at that time, I was stuck for this matter. This is to recognize the worth of work, but work is in a basis of the pain, isn't this?

And then what I felt any differences for thoughts of the company we were working was the news such as executives at the point of bankrupted company earned a huge bonus. AIG, one of the biggest American insurance companies lost 99.3 billion dollars in 2008 and FRB financed 85 billion dollars to AIG. In 2009 a large amount of bonus was paid to their employees in 165 million dollars in total. There were 73 executives to earn over 1 million dollars and any executives to gain over 6.4 million dollars. It indeed caused any problems about it at the Congress, but nobody absolutely returned it. It would be same as some large companies that were in a tight squeeze as well as AIG.

We reminded a story of Noah's ark on the Genesis. God disappointed at decayed and corrupted human beings and swept away them caused by big flood. But the God hesitated to lose all of the lives and helped to ride a firm belief Noah, his family and all of animals in the ark. It will make the chosen's consciousness, won't it? The company is a villain to sink into the sea and we, human beings are the chosen, so it is right to earn a large amount of bonus. In Japan we can not receive a lot of bonus against the society in this case. Some of them would refuse it or cut the salary. The salary of the company president in Japan is originally less than in the States. We, Japanese have awareness that the activities in the company are carried by the total power of the company and the powers of the executives are less than in the States.

We, Japanese made agricultural works as cooperative activities as agricultural people and we have continued to live at the village to speak thankfully to each other that was based on family and group principles. It didn't adapt us to be earned a large amount of salary by somebody.

In the States, when somebody succeeded, they made a large community service. The former Japanese who lived in the States succeeded a internet department store and Van Cliburn who was one of famous pianists held a Van Cliburn piano competition have tried to make young Japanese pianists join this competition. In the States though they made huge revenues, they didn't generally have any customs to remain a large field to their descendants, but they and they made a large business. Of course it is not praised but we Japanese should make our effort to the society with thankfully mind.

It doesn't say which is better in a basis of cultural difference, we Japanese who have to live in the world have to find any common ground.



未だ終わらぬ段階での回顧は少し無理があるが準備段階を入れればかなりの時日が経っているので、取敢えず、残りの活動を含めて振り返ってみることにしたい。

昨年1月、例年同様ガバナーが国際協議会から戻れると、事前準備の活動が大きく動き出した。チーム研修、PETS、地区協議会、増強、財団と研修セミナーが続く。当時私は前年度のガバナー補佐の仕事もしていたので、今想い出してもなかなか大変で、転びそうになりながら疾走するというような状況、多くの方々にご迷惑をおかけしたと思う。この事前研修の段階では市川研修リーダー始め研修副リーダー、各常設委員長ほか研修に携わられた多くの方々には大変お世話になった。次に年度に入っの運営については、特にガバナー補佐、グループ幹事の方々に協力頂きクラブ支援をしっかりと進めて頂いた。その他ガバナー活動を支える地区役員の方々には、諸事ご教示ご支援を頂いた…、深く感謝申上げる。

さて、今年度活動の主要なものを思い出してみよう。

◆ **ガバナーの公式訪問** ガバナーは7月～11月間に国内全クラブ、12月にPBGを訪問、主として合同例会にして頂き、全体で48回（うちPBG8回）に纏めて訪問された。例年短期間集中で大変ではあるが、ガバナーは出来るだけ多くの意見を聞こうという強い意向を示され、ガバナー補佐・グループ幹事の方々の助力もあって、クラブの実情・問題点や率直な意見・要望を伺い、極めて有効なことであったと思われる。特に減多に訪問出来ないPBG訪問は強い印象が残ったように思う。

◆ **I.M.・クラブ合同行事など** I.M.は各グループの判断で開催を決め、今年度は、多摩南、多摩中、山の手東・西、千代田の5グループで行われた。夫々狙うところや内容は異なるがいろいろと工夫を凝らし、奉仕に親睦に討議に情報交換に独自の期待した効果を出していたように思われる。一例を挙げれば、山の手東・西グループ合同I.M.で20のクラブが夫々ビジュアルな方法で奉仕の実情を伝え、多くの会員が互いに活動の理解を深め、親睦を図ると共に、更に早い段階から準備したチャリティーオークションによる資金捻出で、この5月に目黒区東山公園に植樹をする計画となっていることは注目される。

また、グループ或いはそれを超えて多くのクラブが共同で行った活動もある。簡記するが、例えば3月の「子ども「食空間」シンポジウム」（世田谷南RC主催）や、4月の「長生きの秘訣 — メタボをなくそう」（銀座新RC主催）などを挙げておこう。

◆ **主要行事** 最大の行事は地区大会であり、もう一つは日韓親善会議であった。第10回日韓親善会議が韓国ソウルで9月4、5両日開催された。関係各位の多大なご努力で全国から広く大勢の方々が参加され、日本側690名、韓国側700名というこれまでにない盛大な会議となった。中でも会議における新世代の方々による発表は参加各位の胸を打つ感動的なものであり、両国の親善に大きく寄与するものであったと言えよう。

地区大会は、2月24、25両日、RI会長代理近藤雅臣氏ご夫妻を迎えて、盛大に開催された。先ず24日夕のRI会長代理歓迎晩餐会では姉妹地区韓国第3650地区の方々もお迎えして、雅楽演奏で落ち着いた雰囲気醸成され、深い友好親善が図られたように思う。本大会では「原点に戻ろう、ロータリアンとして」をテーマに、カンファレンスの趣旨を貫いて、多くのクラブや若い諸氏の支援も得て、地道な運営に努められた。主たる講演を近藤RI会長代理ともうお一方に絞り、来賓紹介などを簡潔に、表彰もごく一部にとどめ、決議も明確に短く纏めて、更に昼からは海上保安庁のマーチで気分の高揚を図るなどいろいろの工夫がなされた。この中で特に注目すべきは新世代の諸君の体験談報告で、多くの聴衆の心を打ち、長く記憶に残るものであったと思う。

◆ **特記事項** 最後に特記すべき事項として二つを挙げておきたい。先ずは、東京米山友愛ロータリークラブの新設。このクラブは、既に2月11日に23名で発足し、5月30日にRI認証状授与のチャーターナイト開催の予定となっている。全く新しい発想の下、米山学友を中核とするクラブとして企画され、その構想は2005年に遡る。これまで学友定例会を続けての地道な活動の上に、先般世田谷中央RCがホスト・クラブとなって実現したものである。このように確たる基礎を固め、米山学友という若い澁刺たるロータリアンが揃ってのクラブ新設は、今後のロータリーに大きな刺激を与え、素晴らしいクラブに発展するものと期待される。

次に「ミクロネシア、チューク州離島への海水蒸留装置寄贈プロジェクト」に関する奉仕活動である。このプロジェクトは既に周知されているが、実際にこの装置を離島に配送して利用方法までを指導するということは、なかなか至難の業なのである。かなりの危険と劣悪な条件での船旅という困難なこの奉仕を、昨年8月舟木、坂本、ヘーゲン、ボイランの4氏が自ら進んで2週間余にわたって実行され、先般の地区大会でも感謝状を贈られ多大の賞賛を受けておられる。マッチング・グラントの対象にもして頂き今年度一応の目途で纏めるよう運んでいるが、更に青山RCが推進に努力されるなど各位の多大なご協力が大きく実ってきたものと言える。特記しておきたい。

この他想い出されることも多々あるが、主なもののみにとどめ、この辺りで結びとしたい。



東京米山友愛ロータリークラブの新設



ミクロネシア、チューク州離島への海水蒸留装置寄贈プロジェクト

去る2月11日に創立総会を開催し、正式なクラブとして3月16日に国際ロータリーより加盟認証を戴きました。就きましては、加盟認証状伝達式典を右記により開催させて戴きます。各クラブ及び関係各位に対するご案内状は、既に差し上げている通りですが、皆様方には是非、この記念すべき式典にご臨席賜り、この喜びを共有戴きたいと存じますので、ご出席の程宜しくお願い申し上げます。

記

1. 日 時：2010年5月30日（日）

登録受付 10：00～11：00

認証伝達式典 11：00～12：00

記念講演 12：00～12：30

祝 宴 12：30～15：00

2. 場 所：ホテルニューオータニ ザ・メイン 本館「鶴の間」

（特別代表） 関 博子

（会 長） 楊 錦華

（実行委員長） 辻 厚志

米山功労者ご紹介

ご協力を感謝いたします

■ 米山功労者

| | | | |
|---------|----------|-----------|----|
| 石井 三衛君 | 東京調布 | 2010.3.1 | 3 |
| 内田 武君 | 東京調布 | 2010.3.1 | 1 |
| 藤岡 義見君 | 東京調布 | 2010.3.1 | 1 |
| 石田 克己君 | 東京調布 | 2010.3.1 | 1 |
| 山家 豊三郎君 | 東京調布 | 2010.3.1 | 1 |
| 小林 幸孝君 | 東京成城新 | 2010.3.2 | 1 |
| 秋山 真君 | 東京八王子北 | 2010.3.2 | 1 |
| 阪田 昭君 | 東京蒲田 | 2010.3.4 | 3 |
| 原 芳雄君 | 東京中央 | 2010.3.5 | 1 |
| 小川 博君 | 東京西 | 2010.3.8 | 1 |
| 山崎 誠三君 | 東京日本橋西 | 2010.3.16 | 8 |
| 熊本 誠司君 | 東京小金井さくら | 2010.3.18 | 1 |
| 蛸原 宗久君 | 東京中央 | 2010.3.24 | 8 |
| 青柳 晴久君 | 東京銀座 | 2010.3.25 | 1 |
| 伊東 正文君 | 東京たまがわ | 2010.3.26 | 1 |
| 高山 成雄君 | 東京南 | 2010.3.31 | 85 |
| 星野 欣也君 | 東京南 | 2010.3.31 | 7 |
| 坂口 功君 | 東京中央 | 2010.3.31 | 42 |

ポール・ハリス・フェローご紹介

◎はマルチブル

ご協力を感謝いたします

| | | |
|----------|---------|-----------|
| 平澤 富吉君 | 東京神宮 | 2010.3.19 |
| ◎ 泉 智雄君 | 東京中央 | 2010.3.26 |
| 藤原 典子君 | 東京恵比寿 | 2010.3.26 |
| 細倉 薫子君 | 東京恵比寿 | 2010.3.26 |
| 児島 三枝君 | 東京恵比寿 | 2010.3.26 |
| 内田 長郷君 | 東京恵比寿 | 2010.3.26 |
| 牛尾 和夫君 | 東京恵比寿 | 2010.3.26 |
| 吉川 愛美君 | 東京恵比寿 | 2010.3.26 |
| ◎ 波多野容子君 | 東京恵比寿 | 2010.3.26 |
| 山内 千枝君 | 東京国分寺 | 2010.3.26 |
| 須藤新太郎君 | 東京国分寺 | 2010.3.26 |
| ◎ 尾木 徹君 | 東京南 | 2010.3.31 |
| 松島美知子君 | 東京世田谷中央 | 2010.3.31 |
| ◎ 久嶋 達也君 | 東京多摩 | 2010.3.31 |
| ◎ 中野 陽一君 | 東京たまがわ | 2010.3.31 |
| ◎ 佐藤 高志君 | 東京たまがわ | 2010.3.31 |
| ◎ 関谷 雄弘君 | 東京たまがわ | 2010.3.31 |

新ベネファクターご紹介

ご協力を感謝いたします

| | | |
|--------|----------|-----------|
| 山本 松郎君 | 東京羽田 | 2010.3.12 |
| 鈴木 隆二君 | 東京町田 | 2010.3.19 |
| 檜崎 博君 | 東京八王子西 | 2010.3.19 |
| 稲生有伎子君 | 東京恵比寿 | 2010.3.26 |
| 田巻 章子君 | 東京恵比寿 | 2010.3.26 |
| 尾木 徹君 | 東京南 | 2010.3.31 |
| 小山三代治君 | 東京シティ日本橋 | 2010.3.31 |
| 杉田 和男君 | 東京国立 | 2010.3.31 |

文庫通信（271号）

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、2万余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。

以下資料のご紹介を致します。

地区大会記念講演から

◎「ロータリーの魔法」

ビチャイ・ラタクル 2009 5p（D.2730）

◎「国際ロータリーの長期計画の

中核となる価値観について」

黒田正宏 2009 9p（D.2570）

◎「クラブの活力の再生をめざして —

前橋RCのCLP実践事例」

曾我隆一 2009 7p（D.2510）

◎「ロータリーと夢」

三井章義 2009 11p（D.2640）

◎「グローバル化と日本の教育」

中嶋嶺雄 2009 12p（D.2600）

◎「これからの北海道が生き抜く道」

寺島実郎 2009 16p（D.2510）

◎「私の夢 — 世界最高齢でチョモランマに挑む」

三浦雄一郎 2009 14p（D.2510）

◎「“夢をかたちに”

日中友好秘話 — 梅屋庄吉と孫文」

小坂哲郎 2009 4p（D.2570）

◎「日本のこころについて」

境野勝悟 2009 12p（D.2560）

上記申込先：ロータリー文庫（コピー/PDF）



〒105-0011

東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F

TEL(03)3433-6456 FAX(03)3459-7506

http://www.rotary-bunko.gr.jp

開館=午前10時～午後5時 休館=土・日・祝祭日

（深く哀悼の意を表し御冥福を祈ります）



長久保 一郎（東京立川RC）

2010年3月28日逝去（享年73歳）

1995年5月12日入会

ポール・ハリス・フェロー

米山功労者（3回）

★国際ロータリー第2750地区出席報告（3月分）★ District 2750 Membership Attendance Report March 2010

| 区分 | クラブ名 | 例会 | 出席率 | 会 員 数 | | | 区分 | クラブ名 | 例会 | 出席率 | 会 員 数 | | |
|--|-------------|----|-------|---------|--------|----|---------------|-------------|----------|-----------|----------|--------|----|
| | | | | 09年7月1日 | 10年3月末 | 増減 | | | | | 09年7月1日 | 10年3月末 | 増減 |
| 千代田グループ | 東 京 南 | 4 | 77.54 | 173 | 172 | -1 | 多摩南グループ | 東 京 八 王 子 | 4 | 86.58 | 60 | 62 | 2 |
| | 東 京 芝 | 4 | 92.61 | 89 | 92 | 3 | | 東 京 町 田 | 4 | 73.55 | 55 | 54 | -1 |
| | 東 京 新 橋 | 4 | 81.93 | 54 | 52 | -2 | | 東 京 日 野 | 5 | 78.41 | 41 | 38 | -3 |
| | 東 京 赤 坂 | 4 | 73.90 | 47 | 47 | 0 | | 東 京 八 王 子 西 | 3 | 80.18 | 69 | 72 | 3 |
| | 東 京 み な と | 4 | 85.78 | 50 | 51 | 1 | | 東 京 町 田 ・ 中 | 5 | 79.19 | 38 | 37 | -1 |
| | 東京レインボー | 4 | 85.53 | 41 | 42 | 1 | | 東 京 八 王 子 東 | 4 | 78.70 | 28 | 27 | -1 |
| 銀座・日本橋グループ | 東 京 麻 布 | 5 | 76.00 | 21 | 23 | 2 | 東 京 八 王 子 南 | 5 | 86.54 | 56 | 54 | -2 | |
| | 東 京 銀 座 | 5 | 76.75 | 159 | 156 | -3 | 東京町田サルビア | 4 | 85.00 | 25 | 23 | -2 | |
| | 東 京 日 本 橋 | 4 | 82.57 | 176 | 182 | 6 | 東 京 飛 火 野 | 5 | 75.36 | 30 | 31 | 1 | |
| | 東 京 築 地 | 4 | 81.48 | 62 | 62 | 0 | 東 京 町 田 東 | 4 | 70.54 | 29 | 29 | 0 | |
| | 東京日本橋東 | 4 | 79.60 | 54 | 52 | -2 | 東 京 八 王 子 北 | 4 | 82.81 | 31 | 33 | 2 | |
| | 東 京 中 央 | 4 | 80.60 | 230 | 242 | 12 | 東 京 立 川 | 4 | 98.00 | 89 | 99 | 10 | |
| 多摩中グループ | 東京日本橋西 | 5 | 86.19 | 48 | 46 | -2 | 東 京 小 金 井 | 4 | 97.50 | 31 | 30 | -1 | |
| | 東 京 銀 座 新 | 4 | 81.33 | 74 | 73 | -1 | 東 京 国 分 寺 | 4 | 92.94 | 50 | 48 | -2 | |
| | 東京シティ日本橋 | 4 | 73.95 | 49 | 51 | 2 | 東 京 三 鷹 | 5 | 89.00 | 42 | 41 | -1 | |
| | 東 京 中 央 新 | 4 | 65.90 | 37 | 39 | 2 | 東 京 昭 島 | 4 | 77.62 | 48 | 53 | 5 | |
| | 東 京 羽 田 | 4 | 82.70 | 44 | 43 | -1 | 東 京 国 立 | 4 | 98.50 | 51 | 54 | 3 | |
| | 東 京 大 森 | 4 | 95.10 | 53 | 49 | -4 | 東京立川こぶし | 4 | 88.54 | 81 | 81 | 0 | |
| 京浜グループ | 東京品川中央 | 4 | 85.63 | 56 | 57 | 1 | 東 京 井 の 頭 | 4 | 84.60 | 25 | 27 | 2 | |
| | 東京田園調布 | 4 | 80.87 | 49 | 47 | -2 | 東京昭島中央 | 5 | 75.00 | 39 | 43 | 4 | |
| | 東 京 蒲 田 | 4 | 88.39 | 59 | 62 | 3 | 東京武蔵国分寺 | 4 | 82.70 | 52 | 49 | -3 | |
| | 東京田園調布緑 | 4 | 80.31 | 23 | 24 | 1 | 東京小金井さくら | 4 | 77.27 | 21 | 22 | 1 | |
| | 東 京 品 川 | 4 | 87.35 | 66 | 67 | 1 | 東京国立白うめ | 4 | 72.22 | 21 | 20 | -1 | |
| | 東 京 大 井 | 4 | 72.50 | 19 | 20 | 1 | 東 京 府 中 | 4 | 79.97 | 64 | 63 | -1 | |
| 多摩東グループ | 東 京 港 南 | 5 | 69.41 | 19 | 18 | -1 | 東 京 調 布 | 4 | 90.46 | 64 | 61 | -3 | |
| | 東 京 大 崎 | 4 | 85.81 | 36 | 37 | 1 | 東 京 多 摩 | 5 | 76.67 | 23 | 24 | 1 | |
| | 東 京 京 浜 | 3 | 85.71 | 23 | 23 | 0 | 東 京 狛 江 | 4 | 85.38 | 32 | 30 | -2 | |
| | 東 京 マ リ ー ン | 4 | 70.00 | 20 | 20 | 0 | 東 京 稲 城 | 4 | 73.44 | 32 | 33 | 1 | |
| | 東 京 白 金 | 3 | 82.20 | 31 | 30 | -1 | 東京武蔵府中 | 4 | 68.31 | 55 | 58 | 3 | |
| | 東 京 高 輪 | 3 | 85.00 | 29 | 28 | -1 | 東京たまがわ | 5 | 82.30 | 25 | 26 | 1 | |
| 山の手東グループ | 東 京 西 | 3 | 87.26 | 151 | 153 | 2 | 東京多摩グリーン | 4 | 80.50 | 36 | 36 | 0 | |
| | 東 京 城 西 | 5 | 78.90 | 76 | 77 | 1 | 東京調布むらさき | 4 | 81.71 | 82 | 82 | 0 | |
| | 東 京 西 南 | 5 | 80.01 | 55 | 53 | -2 | Guam | | — | 76 | 68 | -8 | |
| | 東京原宿 | 5 | 74.29 | 29 | 29 | 0 | Saipan | 5 | 77.25 | 44 | 41 | -3 | |
| | 東 京 杉 並 | 4 | 76.48 | 40 | 41 | 1 | Tumon Bay | 5 | 42.00 | 94 | 90 | -4 | |
| | 東 京 神 宮 | 5 | 76.36 | 35 | 32 | -3 | Northern Guam | | — | 35 | 35 | 0 | |
| 山の手西グループ | 東 京 恵 比 寿 | 4 | 76.70 | 94 | 95 | 1 | Pohnpei | | — | 20 | 19 | -1 | |
| | 東 京 広 尾 | 3 | 75.36 | 24 | 23 | -1 | Palau | 5 | 75.00 | 15 | 16 | 1 | |
| | 東 京 渋谷 | 4 | 54.35 | 39 | 40 | 1 | Guam-Sunrise | | — | 31 | 33 | 2 | |
| | 東 京 六 本 木 | 4 | 80.00 | 52 | 51 | -1 | Truk Lagoon | | — | 12 | 13 | 1 | |
| | 東 京 世 田 谷 | 4 | 85.50 | 61 | 60 | -1 | 国内83クラブ計 | | | 4,351 | 4,403 | 52 | |
| | 東 京 目 黒 | 4 | 88.67 | 49 | 45 | -4 | 地区91クラブ計 | | | 4,678 | 4,718 | 40 | |
| 山の手西グループ | 東 京 成 城 | 5 | 82.10 | 24 | 24 | 0 | 千代田グループ | 81.90 | 多摩南グループ | 79.71 | | | |
| | 東京世田谷南 | 3 | 78.00 | 94 | 91 | -3 | 銀座・日本橋グループ | 78.71 | 多摩中グループ | 86.16 | | | |
| | 東 京 城 南 | 2 | 58.00 | 27 | 33 | 6 | 京 浜 グループ | 82.21 | 多摩東グループ | 79.86 | | | |
| | 東 京 山 の 手 | 3 | 77.43 | 67 | 67 | 0 | 山の手東グループ | 75.97 | P B グループ | — | | | |
| | 東 京 成 城 新 | 4 | 73.92 | 38 | 35 | -3 | 山の手西グループ | 76.79 | | | | | |
| | 東 京 青 山 | 4 | 69.90 | 33 | 34 | 1 | | | | | | | |
| 山の手西グループ | 東京自由が丘 | 4 | 91.54 | 18 | 21 | 3 | | | | 平 均 出 席 率 | 80.32 | | |
| | 東京世田谷中央 | 5 | 71.32 | 29 | 28 | -1 | | | | | (PBGを除く) | | |
| | 東 京 米 山 友 愛 | 5 | 68.33 | — | 24 | 24 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| ※ PBグループの出席率については、4月25日現在未着です。次号に掲載予定です。 | | | | | | | | | | | | | |

※ PBグループの出席率については、4月25日現在未着です。次号に掲載予定です。

編集後記

昨年5月、当委員会の委員として初参加して以来、早くも1年。月並みですが、光陰矢の如しという古語を思い浮かべます。思うに、今年に入りましてから次年度の準備が同時併行で進められており、常に走り続けているような状態が、「時の経つのは速い」につながるのでしょうか。

既に、月信には今年度を振り返る記事や次年度準備の記事が交互に掲載され始めており、地区活動の漏れ無き情報収集が重要な時期になってまいりました。引き続き、皆様のご協力をよろしくお願いたします。

2009-10年度ガバナー月信・IT委員会 委員 堀口 昇治 (東京西RC)

国際ロータリー第2750地区 2009-10年 ガバナー 久邇 邦昭

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F 電話 03-3436-2750 FAX 03-5472-2750

Rotary International District 2750 2009-10 Governor Kuniaki Kuni

KOKURYU SHIBA-KOEN BLDG. 3F, 2-6-15 SHIBA-KOEN, MINATO-KU, TOKYO, JAPAN 105-0011 PHONE 03-3436-2750 FAX 03-5472-2750

発行：ガバナー 久邇 邦昭(2009-10) © Kuniaki Kuni 2010

編集・制作：ガバナー月信・IT 委員会委員長 田辺 克彦 副委員長(ガバナー月信担当) 成吉 徳

中野 博義 Andrew WONG 木村 清信 松田 美房 竹平 時彦 堀口 昇治 森本 行俊 浅見 省三 河村 勝久 坂場 一隆 渡邊 卓美

ガバナー月信・IT 委員会副委員長(IT 担当)：山見 真弘

ホームページアドレス

<http://www.ri2750.org/>